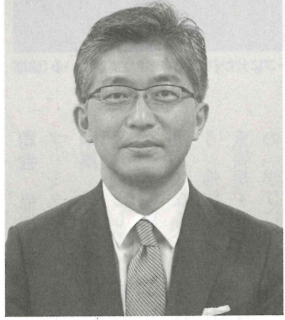


座談会「私に合った

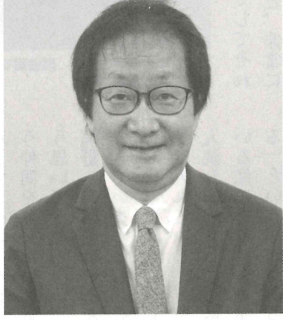
学校選択とは？」



中畠 裕一さん

国際基督教大学高等学校
校長

1965年、東京生まれ。早稲田大学大学院教育学研究科修了。横浜共立学園中学・高校の非常勤講師を経て、89年開校のテネシー明治学院教諭として学校づくりに5年間参画。95年から国際基督教大学高等学校の地歴公民科教諭に。グループ・プレゼンテーションやディベートなど、倫理的なトピックを生徒自らが選び、調べ、工夫して発表し、議論する主体的・対話的な学びを創る。2017年に教頭・帰国生徒教育センター長に就任し、3年間で31の海外都市で学校説明会を行った。副校長を経て2020年4月、校長に就任。



熊野 孝さん

桐朋女子中学校・高等学校
国際教育センター主任

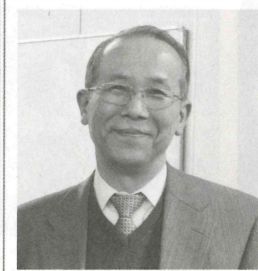
1963年、東京生まれ。75年から4年間ニューヨークで生活した元帰国生。立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科修了。修士論文のタイトルは「グローバル・マイグレーション時代の日本人学校」。桐朋女子中学・高校では国際教育センター主任として海外からの帰国生受け入れ業務全般と、学校の異文化理解教育プログラムの立案・運営に携わるほか、英語アドバンスコースディレクターも務める。アメリカのサウスカロライナ州クレムソン大学で長年実施したプログラムが評価され、クレムソン市名誉市民の称号を授与されている。



渡辺 克彦さん

東京インターハイスクール
学院長

1954年、東京生まれ。高校を卒業後、ハワイに移住。ハワイ大学LCC校からオハイオ州立大学に進み、同大学院で経済学とファイナンス学の修士号(MA)を取得。テキサス州ダラス市の米銀行で石油ファイナンスに従事後、投資銀行家として野村證券に転職してニューヨークで12年、東京で5年働いた。2003年に米国系金融のフォリオ社の在日代表として帰国し、日興コーディアル証券と合弁事業を創業。国際ビジネス経験を生かして2011年に東京インターハイスクールを開校した。「多様な学び保障法を実現する会」などの運営委員も務める。



司会：小山 和智

本誌ライター。ジャカルタ日本人学校、クアラルンプール日本人学校、上海日本人学校で3年ずつの勤務経験を持つ。

「帰国後の学校を評判やネームバリューで選んでしまったところ、全然なじめない」という相談が少なくない。また一方で「帰国子女を多く受け入れられている学校に入れたので、『もう大丈夫!』と安心してしたが、いざ入ってみたら思っていたのとは違っていた……」という相談もある。

ミスマッチは入学後に帰国生に対する配慮をしていない学校とだけではなく、「帰国生が海外生活で身につけてきたことを保持伸長する」と掲げている学校でも起こり得る。子どもと学校とのミスマッチは子どもにとっても学校にとっても悲劇である。この特集では学校選択のミスマッチを避けるためにはどうすればいいのか、帰国生の受け入れに伝統のある二つの学校と、多様な学びを提供して帰国生の受け皿にもなっている通信制の学校の先生に語り合ってもらった。

帰国生の受け入れに 対する考え方

司会 まず、それぞれ学校の特徴などを簡単にお願ひします。

渡辺 東京インターハイスクールは、アメリカ・ワシントン州のアルジャー・インディペンダンス・ハイスクール日本校として二〇〇〇年に開校しました。おもにインターネットを利用したオープンエデュケーションを実践し、いつでも入学して卒業できる完全単位制の学校です。卒業するとアメリカの高校の卒業資格を得ることができます。生徒自身が目標を設定して学習を進める「学びのシステム」で、英語でも日本語でも学習できるので在学中に日本の高等学校卒業程度認定資格(旧大検)を学校科目として取得する生徒も多くなります。社会一般にある学びの資源……たとえば学習塾やサマーキャンプ、あるいはプロスポーツ選手になるためのトレーニングであっても、それらを卒業単位として履修できます。大学に入ってから自分の将来やキャリアを考えるので

はなくて、中高生のときから「自立と自律を目指して、さまざまな学習体験に挑戦する学校」です。

熊野 桐朋女子中学校・高等学校が帰国生の受け入れを開始したのは一九五九年です。もう六十年以上になりますが、基本的には帰国生のための学校というわけではなくて、いろいろなタイプの生徒がいます。ずっと日本で勉強してきた子もいますし、お父さんとお母さんのどちらかが外国のかたという生徒もいます。いま「ことばの力を創造力に」を合いことばに、言語をツールとして使った上で、自分の考えをまとめ、発信していきける生徒を育てていくことを進めています。お互いの違いを理解したうえで、生徒一人ひとりがハッピーになれる場所を見つけれらる、そういう学校でありたいと思っています。

中畠 国際基督教大学高等学校(ICU高校)は、一九七八年に日本で最初の帰国生受け入れの専門校としてつくられました。そのころから一貫して、帰国生と国内の一般生が出会い、学び合い、分かち合う、そういう三年間を生徒たちに贈ろうと力を尽くしてきました。



高校2年生倫理の授業 図書館で小グループに分かれて討論を繰り広げている(国際基督教大学高等学校)

司会 帰国生の受け入れがトッ
プ・ミッションではないと。
中馬 はい。ですが、帰国生受け
入れ校としての役割は変わりませ
ん。その要請は高まりこそすれ、
決してなくなることはないです。
帰国生を受け入れる際に最も
重要視するのは、生徒一人ひと
りの「学びに向かう力、学ぶ力」
です。私たちが掲げるミッションを
示して、そのミッションを共に担
う仲間を募りたい、育てたいとい
う思いですね。

した。「平和と人権、そしてそれ
を支えるキリスト教」と、非常に
明確なミッション(使命)を持っ
ていますが、他方で、ニーズが
あつてつくられた学校であるとい
う側面もあります。つまり、さま
ざまな経歴を持つ海外生や帰国生
の経験、特性、学力、希望などを
いったん受け入れるところから教
育を出発しようというふうになっ
ています。それを四十数年間変わ
らず堅持してきたと思っています。

熊野 帰国生はいろんな学びをし
てきていますから、その子一人ひ
とりの学習歴などをしっかり見て
受け入れていきます。一般に帰国生
入試というと、「学校側が求めて
いる像にあてはまる帰国生を集め
る」という傾向があると思うん
ですけど、桐朋女子はそうではあり
ません。海外で学んだ経験は生徒
に大きな影響を与えているとは思
いますが、それがその生徒のすべ
てではないんです。帰国生を多面
的に捉え、帰国生が「あるがままの
自分」をしっかり伸ばしていける
環境を提供すること、これが桐朋
女子の帰国生受け入れの原点です。
渡辺 帰国生のなかには、親の赴

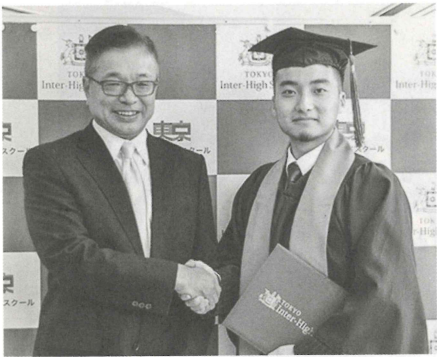
任のときも帰国生のときも急に決ま
ったりして、いろんな学びの機会
が失われてしまう子が多いですよ
ね。平等でフェアな学びの機会が
なかなか得られないケースがじつ
に多い。日本は四月始まりで、履
修単位もふりかえられなかったり
する。欧米だったら、そんなに難
しくはないことが日本の学校では
難しくなる。「いまの学校では思っ
たことができない」「こんなはず
じゃなかった」と悩んでいる生徒
の「受け皿」になっています。

どんなときに ミスマッチが起きるか

司会 どんなときに「ああ、いま
ミスマッチが起こって相談に来て
いるな」と感じられますか？
渡辺 いちばん多くてわかりやす
い相談は、いま通っている学校に
入学する前に「英語の授業がたく
さんあって」「みたいな話をたくさ
ん聞かされたけれど、実際に入っ
てみると「ほとんど日本語での授
業で、英語は一日一時間か二時間
だけ。話が合わない？」というよ
うなものです。「国内育ちで英語

を集中的に勉強したい生徒がほと
んど」とか「自分は帰国生のなか
でもちょっと浮いちゃってる」「み
たいなケースも多いですな。
熊野 帰国生として最初に入った学校
が合わなかったで桐朋女子に移
りたいという相談を受けます。お
話を伺っているとき、その学校に入
る前から「この学校はこんな学校
だ」と自分でイメージをつくって
しまっていて、入学後にそのイメ
ージとのちよつとした違いにも違
和感を感じてしまったのかもしれない
と思うことがあります。一〇
〇パーセント自分の予想通りの環
境って、普通ないですから。

熊野 うちの学校の場合でも、い
まお話ししたことは起こり得ると
思います。たとえば、うちの学校
は学校行事が盛んなのですが、「行
事への参加の仕方みたいなものが、
自分が思っていたのと少し違う」
とか。あるいは九月編入で入って
くると、すでに四月に各委員が決
まっていますので、「なんだ、自分
がすぐには中心になれないんだ」
とか。そういう小さなことが少し



アメリカから単身で帰国し、1年半在籍して慶應義塾大学に現役合格した生徒と卒業記念の写真撮影(東京インターハイスクール)

ずつ重なっていくと、「元気がなく
なってしまう。ギャップを感じ
ていそうな生徒には、私は時間
を十分取って話を聞くんですけど、
本人が自分の気持ちを自分なりの
ことばで話すというプロセスのな
かで、その生徒のなかで氷が溶け
ていくみたいな瞬間が何回もあり
ました。だから、「しっかりあなた
の考えを聞かせて」と聞いてあげ
ることが大事だと思っています。
表面的に聞くだけでは「ちよつと
それは通らないだろう」で終わっ
てしまうことがあるかもしれませ
ん。でもどうしてそう考えたのか
をよく聞いていくと、その子なり
に考えていることがあるんです。



外国語特講(桐朋女子中学校・高等学校)

中馬 本校の場合、一つには校名
が「International」で始まるもの
ですから「インターナショナルスク
ールかと思っていた」、あるいは「も
っとインターナショナルスクール
みたいだと思っていた」という期
待からくるものです。IBはやつ
ていない、AP Englishのコースは
あるけれど全員がとれるわけでは
ない、そして英語以外の授業は基
本的に日本語で授業を行っている。
それらに対するがっかり。こちら

から対応できません。これは一生
懸命話をして、なんとか理解して
もらうように努めています。
三つ目は、「日本語での学習が、
こんなたいへんだとは思わなか
った」ケース。日本に帰国すること
について、または日本語で学習す
るといふことについての覚悟とか
本人の納得というものが整ってい
ないと、それはどうしても越えら
れない部分になってしまうと思っ
ます。この点は受験前から、本人

は事前に包み隠さず説明して
いますし、あえて「普通の日本
の学校です。ただし、どこに
もない学校です」という伝え
方をしているんですけど……。
それから二つ目は、馬術部
がないとか、アメフトができ
ないとか。それとアイスホッ
ケーやフィギュアスケートが
できないというのがあります。
ほんとうにさまざまな経験を
積んだ生徒が世界中から集ま
ってきているので、期待もさ
まざまです。それが日本の学
校や「部活」に対するイメー
ジと共に膨らんで、生徒がが
っかりさせてしまうんですし
うね。でも中規模の高校です
から対応できません。これは一生
懸命話をして、なんとか理解して
もらうように努めています。

と親御さんによくお話しておか
なければいけません。

異文化体験だと思って 日本を楽しむ

渡辺 いまコロナで緊急に帰って
こなきゃいけないというときにも
海外での履修単位が認められない
ので「留年しなければならぬ」
とか「日本の高校で一からやり直
さなければならぬ」ということ
になってしまいます。帰国生受け
入れ校なら、国外の履修単位のふ
りかえを細かくやって、留年がな
いようにすべきです。

それと、日本には飛び級がない。
欧米なら、必要な単位さ
え履修すればほとんどん学
年が上がると、十六歳で
高校を卒業して大学に進
むことだってできるとい
う柔軟性があります。う
ちの学校にも十六・十七
歳で卒業する生徒がいま
すが、日本の大学では千
葉大学などの例外を除い
て「満十八歳以上」の入
学条件があるので、それ

*1 IB(International Baccalaureate Diploma Program):
国際バカロレア大学入学資格コース
*2 AP(Advanced Placement):高校の高度な内容の
授業を、合衆国・カナダの大学が履修単位に認める制度



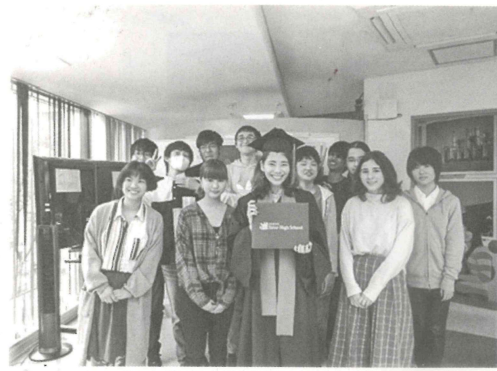
体育祭 衣装も生徒の手づくり (桐朋女子中学校・高等学校)

です。そのうえで、やはり本人の覚悟というものがどうしても必要です。本人が納得し、覚悟ができていれば、そして本人が辛抱強く取り組めば、学期単位で力は伸びていきますから。

「やりきった」という満足感が大事

司会 入学・編入時に抱く不安に対しては、どういった点が大事でしょうか？

中黒 やはり「その不安をクラス



卒業記念写真を撮りにきた生徒を、その日クラスにいた在校生がお祝い (東京インターハイスクール)

であれば、授業の出席日数だとか成績とかで管理されていて悪くなると留年や退学とかにつながるやうという一定の枠があるので、自立心がまだ低い子は、受け身でいられる日本の教育システムの方が楽かもしれません。

司会 「日本の学校は、みんなと同じことばかりやらせる」といった同調圧力みたいなものがないやだと思ってる子に対して、何て言うってあげられますか？

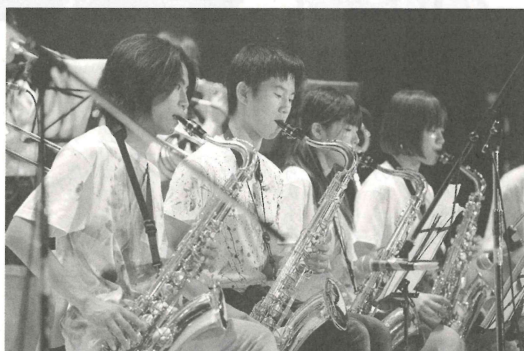
熊野 違和感のレベルにもよると思うんですけど、「なんで？」って聞かれたら、私も「それは僕も思うよ」って言っちゃいます(一同爆笑)。そのうえで、「でもまあ一回やってみようよ。もしかすると少しはいい点も見えるかもしれないし、それでもいやだなと思うかもしれないし。そのあとで、また話そうよ」みたいな感じで返すことが多いかな。

中黒 うちの体育祭のチア(応援団)は、クラスの生徒全員で縦割りの三年生がそろって練習します。最近は全体練習よりも、個人練が非常にハードになってるそう。夕方スマホに映像が送られてきて「明日までに覚えてこい」って(一

同笑)。だからいま、個人練の方みたいへんなのですが、それを楽しんで入学している生徒もいるし、「もつと、ちゃんとやろう」という帰国生もいるんですよ。部活動でも同様です。

司会 先輩でことば遣いを変えるとかは？

熊野 うちの運動部では、普通にありますよ。でも、けっこう楽しんでやってるような気がします。人間関係が悪いとか、しごきがあ



9月の学校祭での器楽部の演奏 20人を超える編成でジャズを奏でる。初心者も少なくない(国際基督教大学高等学校)

るとかというのではないので。まあ、「日本って、そういうところだよ」というのを経験してもらうのも、意味があるかもしれない(笑)。

中黒 異文化体験だと思って、留学生のつもりで楽しんでもらうしかないのかなと思ってます。「それを楽しみに日本に戻ってきたんだ」というような、そういう割り切りがあってもいいのかなとは思いますが、もう一つ、「違和感」「居心地の悪さ」を大切にしたい。あつという間に慣れて調和してしまうのではもったいない。その違和感、日本の社会や人間関係について複眼的に考察する視座になり得るものだと思いますので、他方で、保護者のかたにお伝えしたいことは、「日本のカリキュラムを日本語で、このタイミングで学ぶことが、お子さんの人生にとっては何となく、必須であるのかどうかという点をよくご家庭で考えてほしい」ということ

メリットも持つてるんだ」と共有できることですね。それからもう一つは、保護者同士が同じ不安や悩み、同じ嘆きなどを分かち合えること。これは帰国生が多い学校の最大のメリットかなと思います。保護者の活動、特に父母の会はけっこう活発で、すごくいいコミュニケーションができています。保護者の安定と生徒の安定とは、つながり合っています。

熊野 学校側が受け入れる際に不安に思うケースは、「日本語での学習歴ゼロ」です。うちの学校は日本の教科書を使ってやる授業がメインの学校なんですけど、日本語でことばを投げかけてから何秒かたって理解されるといった日本語のレベルの子でも、けっこう受け入れるんですね。そういう子でも、新しい環境に来て「ここでがんばろう」という気持ちがあると、ものすごく伸びるんです。

だから突然帰国することになった子には「急に帰国が決まってたいへんだけど、日本に戻ってくるときに気持ちを切りかえてきてね。僕たちは、あなたがこの学校でハッピーになれるようサポートするよ。だけど、気持ちがまだ海外に

残っていると、「いまごろ私はあの国でこういうことをやっていたのに、こんな勉強をしていたのに」って、いちいちそこに戻ってしまつて、日本での新しい環境に、なかなか前向きに取り組めないよ。『もう、ここではやりきった』と言えりほど海外の勉強をしつかりやって、それに自信を持って帰ってきてね。「今度は、こっこの世界でやるんだ」ってがんばつてくれればいから」って言うんです。それができれば、日本の学習歴はなくても、なんとかなりますね。

私は海外での説明会に出かけたときに、「ちゃんと成仏して帰ってきてください」ってよく話すんです(一同笑)。

中黒 「成仏して帰る」はいいフレーズですね(笑)。やりきった感というか、不全感を残さずに帰ってきてほしいんですよ。

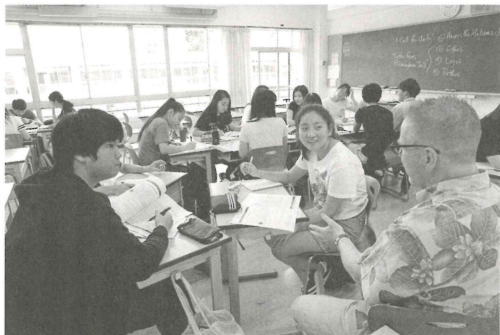
熊野 それと「事前にちゃんと学校に来て、話を聞いて、どういふところか自分の目で見る」というのは、やっていただきたいですよ。実際に見てもらって、「ここで勉強するんだ」って思うと、イメージがつくりやすいです。

司会 学校の空気を吸ってもらう

とか、トイレも見てもらうとか(一同笑)。
渡辺 うちでは「体験学習」もあって、教週間体験してもらいます。だって、みんな不安ですよ。まづ日本に帰ってくることで自分が不安だし、「ほんとうにこういうやり方で、自分で全部できるのか」という不安もある。鍵は、やはり保護者ですね。もちろん子どもが、学ぶ主体ですけど、親御さんが相当かかわってこないとなんか、システムはうまく機能しません。

オープンエデュケーションでは、外で、ほんとうのリアルな世界で学ぶわけです。学校が目届かないところですから、親がそこについていっていかなくてはいけません。システムをうまく利用してもらえませんが、我々は「学習コーチング」ということばを使っていますけど、親に対して「親コーチング」みたいな場もつくっています。

熊野 海外でも日本でも、いま自分の通ってる学校のことを一生懸命やるのが最善なんです。外国の学校でもがんばって、その結果に自信を持って帰ってこられるといいと思います。それと、海外の学



英語の授業 4～5段階のレベルに分けて少人数で行われる。レベル1～2では、アメリカの現地校やインターナショナルスクールの授業を目指している(国際基督教大学高等学校)



理科実験(桐朋女子中学校・高等学校)

ミスマッチを感じる 生徒へのカウンセリング

司会 帰国生がミスマッチに悩んでいるとき、どんな対応をされるか？

中島 三つあります。一つは「学期単位で考えてもらう」ということですね。たとえば一年生の四月入学の生徒であれば、一年生の後半から二年生の頭にかけて、ぐっと力が伸びる時期だと思っていいます。だから「学期単位で、三ヶ月とか半年とかの長さで見てもいい」と話します。

それから二つ目は「別の選択肢も検討してもらう」ということです。ICU高校でも、通信制とか単位制とかサポート校、フリースクールとかインターナショナルスクールとか、あるいは海外に戻るといったような、転学する生徒はいます。そういう生徒たちは、それはそれで自分に合った道を探し出すことができるわけですから、決してマイナスなことではないと思っています。

三つ目は保護者のかたに対して



成果を発表する会「オルカフェスタ」で(東京インターハイスクール)

ですけれども、「担任を、まずは信頼していただく」ことです。保護者と担任の関係は、対一の関係のように見えますが、担任の後ろにはたくさんの教員がいて、チームで対応しています。どうしても担任と話をしている気が通じないとか教務部長とか教頭とか主任とか教務部長とか教頭とかとお話した方がいいです。生徒と保護者の間だけで、学校へのミスマッチ感とか不信感を共有されると、生徒が板挟みになってしまう、あるいは不安が増してしまうとい

うことがありますので、保護者のかたはぜひ直接学校に言っていたくようにお願いします。そのお申し出によってお子さんが不利になるというような扱いは、絶対にありませんから。

熊野 とにかく、生徒に自分の思いを自分のことばで話してもらおうことを大切にしています。場合によっては「担任の先生に言わない方がよければ言わないから、話してごらん」と言って、出てくる話をまず受け止めます。それだけでけっこう、すっきりして帰っていくこともあります。一〇〇パーセント自分が思うままの環境なんてないので、そこで自分らしさを発揮していくにはどうしたらいいかということ、を、私もいっしょに考える姿勢を持ってほしいのです。

保護者のかたにも「うまくいかないと思ってるのか悩んでいるということ、周囲にわかってもらおうと表明することは、マイナスに考えなくていいんだ」という前提でお子さんに接してもらっています。困ったり悩んだりしているということは、自分で一生懸命

考えているわけで、保護者のかたもそこをサポートしていくという姿勢でいてくだされば、本人も楽し、保護者のかたも楽しじゃないでしょうか。

何が生徒の心の中にあって、それが環境に対する違和感として出てきているのなら、その違和感がかたというのを説明させるプロセスに生徒の成長があると思うんです。そこにしっかりとつき合っていくかと思っています。

渡辺 さきほどの「自由すぎる悩み」ですが、これは親も子も乗り

越えないと、結局大人になれません。ですから長期戦で、親コーチングも駆使して「卒業して進学する」というところまでつなげるケースはすごく多いです。生徒の個性をマンツーマンの学習コーチングで自信を育みながら伸ばします。

司会 学習コーチは、どういうかたたちがされるのですか？

渡辺 第二のお母さん。みたいな人たちで、いわば「メンター」です。教えるわけじゃなくて、生徒や保護者をいろいろサポートしていく。だいたい三十代、四十代の女性で、子育て中か子育てが終わった人……教員免許は持っているけれど教師になったことはないという人もいます。

二十年間やってきてわかったのは、親以外の大人が真剣に、対峙して、いっしょに考えてくれるという安心感から子どもは自信が高揚するし、目標を見つけ出せるということです。周りの大人たちがいかに親身にサポートできるか。普通の学校とは違い、ひとりの学習コーチがマンツーマンで相談に乗ってくれる安心感から始めて、そこから塾の先生やスポーツクラブのインストラクターだろうが

「大人はみんな自分のサポーターだ！」みたいに考えられるようになるんです。

司会 帰国生受け入れ校といっても、帰国生に対する配慮が足りない先生がいたりすることはないのですか？

熊野 うちの学校の教員は、わかってくれていると思います。でも、帰国生はそれぞれ学習歴が全然違うので、「中学二年生なら、これくらいできるだろう」とは絶対いえないのに、ともするとそう考えてしまいがちです。だから、特にケアが必要な子が来たときは、教科担当者やクラス担任と相談し、「どうやれば、その子が自分の力で未習事項をキャッチアップしていけるか」ということを考えて接していくよう心がけます。

中島 私たちは受け入れ校として、たくさん経験、知見、先例を持っていきます。でもそれが逆にマイナスに働くこともあるんだなあというのを最近経験しました。

ある教員が「君の日本語の力はかるテストでは、非常に低いレベルのスコアがついてしまった。だけど、君のようなスコアでも、がんばってこんなふう力が伸び

た先輩がいるから、君もがんばれ」とアドバイスのもりで言ったんです。それがその生徒の心にすくく触れてしまって、「そういう言われ方は、自分はすくいやだ」と泣きながら担任に訴えました。いろんな生徒がいて、いろんな感じ方があるんだということは、ほんとうに我々もつねに肝に銘じていかなきゃいけないんだと思います。たくさん知見とか経験とか先例があればあるほど、目の前の一人ひとりに寄り添って、その可能性とか特性を、相手を受け入れるところから出発するべきです。あらためて「みんな注意しようね」と話し合いました。

司会 「学校や先生は好きなんだけど、友達どうもしっくりいかない」「なんだか居場所がない」みたいなことは？

中島 スクールカルチャーのレベルでのミスマッチですね。それはやはり、しっかりと学校を事前に見ることで、生徒の雰囲気をつかんでほしいと思います。そうしておいても、入ってみれば、人間関係はその場その場で与えられたり、あるいは自分のやり方でも違ったりますものです。

そこは「多面体としての自分のどういうところを他者に開示していくか」を考え、自分の側の「こわばり」みたいなものを解いていくのが、遠いようで近道なんじゃないかなと思います。帰国すること自体に緊張感や高揚感があるでしょうし、どの自分を押し出そうかと固く考えてしまうことがあるかもしれません。柔軟に、肩の力を抜いてニュートラルな気持ちで新しい環境に飛び込んでほしいと思います。

熊野 それが海外から戻ってきたことに起因している場合もあれば、十代半ばなら誰でも経験する人間関係での悩みということもあります。本人と話すなかでそれを見極めていくことも必要です。自分が変わらないと、別の環境に移ってしまう、結局同じことになってしまうということもありますから。

帰国が急に早まった ときには、どうする？

司会 帰国が急に早まった場合、ミスマッチを避けるためには何ができるでしょうか？

中島 もう可能な限り、早めに学校を見ておいてもらいたいですね。とにかく一度は、家族の誰かが学校の空気を吸いに来ておいてほしいです。ICU高校では「個別学校見学」を行っています。国によってソングラン^{※3}があつたり、春節^{※4}があつたり、ヒンドゥー教の祭りがあつたりと長い休みの時期が異なりますので、一年中どこかしらの生徒が学校を訪ねているという状況です。

学校へのミスマッチにも、三つレベルがあります。まず、学校のミッションのレベル。二つ目は、スクールカルチャーのレベル。三つ目は、カリキュラムのレベルです。慌ただしい状況のなかですけれど、学校見学とかホームページを見るなど、得た情報をもとにして整理してみることは、大事です。三つがすべてフィットすればベストのうち、二つしかフィットしていない」ということもあるでしょう。「自分はその三つのなかで、どういうプライオリティーをつけるのか」「これとこれはマッチしてるけど、これは我慢できるよね？」というような整理をするわけです。

漠然とではなく、「どのレベルでのマッチ、ミスマッチか」「自分がどこが譲れて、どこが譲れないのか」ですね。

熊野 「急に帰国が決まっちゃったんですよ」という電話がかかってきたときは、できれば本人とちゃんと話をしたいと思っています。たとえば「あと半年いればアメリカで卒業できるのに、高校三年の四月から日本の学校に通わなきゃいけない」というような受験希望者と、メールをやり取りしたり国際電話で話をしたりしたこともあります。ポイントが「そのタイミングでの帰国を前向きに捉えよう」ということ。先ほどの、成仏^{※4}にもつながるんですけど。

そして帰国したら、とにかく面談して、前向きに捉えるように話してみます。「あなたはアメリカにも母校があるけど、ここで帰国すれば日本にも母校ができるじゃない。だからこの一年間、たいへんなことはいっぱいあると思うけど、がんばってみようよ。このたいへんなことについていうのは、いまのあなたしかできないんだから」とか、「たとえば学校行事では、

高校三年生っていちばんおいしいところをパッとつかみ取りすることもあるので、とにかくこの状況を楽しもうよ。しっかりとサポートするから」とか。

司会 自己肯定感というか、「自分はこれだけがなげられる」という気持ちも大事ですね。

渡辺 急に帰国が決まった！と現地から問い合わせがあると、まず Skype で学校のことを説明します。「こういう柔軟な転校先もあるんだ」と興味をすごく持たれますね。

そして「大丈夫かもしれない」と、安心していただく。そのほか、NHKの番組でうちの学校を紹介してくれたビデオもあるので、それを YouTube で見てもらったり、卒業生の人気 YouTuber がつくった学校紹介ビデオを見てもらったりもします。

また、勘違いがないように「日本の学校ではない」ことを明確に伝えたいうえで、帰国生には「こういう柔軟な選択肢もあるので、心配なく帰国してください」と話します。

司会 ありがとうございます。

※3 ソングラン：タイやビルマで最大の祭り「水かけ祭」
※4 春節：中国・韓国・東南アジアなどの「旧正月」